

航路問題に関する調査特別委員会報告

平成30年4月臨時会において執行部要請により設置された航路問題に関する調査特別委員会は、計16回の委員会を開催し、令和2年第1回定例会最終日に報告を行いました。

① 海路について



佐渡航路は観光航路の要でもあるが、あくまで島民の生活航路であることから、島民の利便性を重視した航路であるべきと思料する。

主要航路である両津—新潟航路は黒字であるが、小木—直江津航路は、毎年、巨額の赤字が続き経営に大きな影響を及ぼしている。北陸新幹線開業に期待したが、導入した高速カーフェリー「あかね」が荒天時に就航率が極端に悪く利用者に不評で、島民をはじめ利用者の減少に歯止めがかかっている。このことは、建造時に議会の提言を無視しカタマラン型を選択した佐渡汽船の責任を強く問わなければならない。小木—直江津航路について、船舶の形態、運航ダイヤなど抜本的な見直しをすると同時に、公共交通機関として経営改善に更なる企業努力を行うよう強く要望する。

両津—新潟航路については、建造後39年を経過するジェットフォイルに関して、高速交通体系維持の観点から、早急に新造する必要がある。しかし、現在の事業者である佐渡汽船が単独で建造することは困難なことから、鉄道建設・運輸施設整備支援機構の船舶共有制度を利用し建造する方向だが、建造や赤字補填を自治体に頼るのではなく上場企業として企業責任を果たすべきである。なお、平成25年8月25日「あかね」建造時に開催された佐渡空港・小木航路特別委員会における参考人聴取で、委員から「今後、佐渡市に支援を求めないということですね。」との質問に対し、当時の佐渡汽船の専務は明確に「今後、支援は求めない。そのとおり。」と答えていることを申し添える。よって、今後、船舶建造にあたっては、佐渡汽船の筆頭株主であり、離島を有する新潟県に対し、佐渡市として強く財政支援を行うよう求めるべきである。

今後の課題としては、新潟県、佐渡市、佐渡汽船、新潟交通佐渡、地元関連業者、佐渡観光交流機構が一体となって誘客体制を強化し、利用客の増加に努めるよう提言するものである。

② 空路について

県営佐渡空港については、離島振興の観点、交流人口拡大を図るために、ジェット機が就航可能な空港整備が急務であるが、佐渡空港拡張整備事業は、未だに事業化に至っていない。

現在の空港で離発着できる航空機の導入により休止となっている佐渡—新潟空路を復活させ、新潟空港経由や佐渡対地方航空便を新たに開設し、利用促進を図りながら空港拡張整備事業を推進すべきである。

また近年は、大規模災害が全国的に多発しており、島民の安全確保の観点から空港は、港湾と共に本土とを結ぶ重要な拠点となる。離島にとって日常生活に必要な交通手段を複数確保する観点からも佐渡空港の拡張整備に早急に着手すべきである。



2月定例会においては、4人の議員が代表質問を、15人の議員が一般質問を行い、市政について質しました。本コーナーでは、その要旨を、議員の寄稿により掲載しています。



代表質問・一般質問




ココが聞きたい!!

- ◆ 新生クラブ 佐藤 孝 議員 6
- ◆ 佐渡文化財団は早急に組織見直しを
政友会 岩崎 隆 寿 議員 7
- ◆ 三浦市政4年間の総括と施政方針について
市政会 竹内 道 廣 議員 7
- ◆ 政治家は結果が全てだ
政風会 坂下 善 英 議員 8
- ◆ 令和2年施政方針について問う
- ◆ 室岡 啓 史 議員 8
- ◆ 佐渡が世界遺産となる記念日を条例制定せよ
山田 伸之 議員 9
- ◆ 佐渡ー東京、大阪の空路開設を求める
後藤 勇 典 議員 9
- ◆ 自治体病院の在り方について両津病院編
稲辺 茂 樹 議員 10
- ◆ 市民のための佐渡づくりを
金田 淳一 議員 10
- ◆ 県財政難がもたらす佐渡市への影響は
中村 良 夫 議員 11
- ◆ 市営住宅は保証人なしでも入居可能に
上杉 育子 議員 11
- ◆ 目的に沿った計画性のある地域振興基金運用を
中川 直 美 議員 12
- ◆ 4年間の三浦市政と文化財団
祝 優 雄 議員 12
- ◆ 三浦市政と将来ビジョンを問う
伊藤 剛 議員 13
- ◆ 水産業、一次産業を稼げる産業へ
駒形 信 雄 議員 13
- ◆ 新型コロナウイルスの感染症対策について
荒井 眞 理 議員 14
- ◆ 佐渡の子どもと未来を全力で守れ
渡辺 慎一 議員 14
- ◆ 奨学金制度は民間銀行とタイアップで
猪股 文 彦 議員 15
- ◆ 急がれる、両津市民病院の改築計画
近藤 和 義 議員 15
- ◆ 周辺地域・限界集落にも行政サービスが必要

新生クラブ 代表質問

佐渡文化財団は早急に組織見直しを



佐藤 孝 議員

【質問】 交流人口拡大やUターン促進について、思い切った施策を講じなければいけないと思うがどうか。

【市長】 交流人口は、自然災害や社会的要因により減少に転じたこと分析しているが、取り組んでいる方向性に間違いはないと考えている。Uターンについては、空き家調査員育成プロジェクト協議会と連携し、空き家の利活用をさらに進めていく。

【質問】 佐渡文化財団のあり方や運営等の制度設計に大きな欠陥があるにもかかわらず、国の補助事業を優先するやり方が今回の事態を招いている。公益財団法人への移行も念頭に置き、早急に組織の見直しをすべきではないか。

【市長】 佐渡文化財団の運営目的である伝統文化の継承、保護、保存、情報発信などは極めて重要なことであるため、運営については改善努力をしている。

【質問】 漂着ごみの対策について、副市長を中心にプロジェクトチームをつくるのか、また環境対策課が中心となり体制整備をするのか。

【市長】 海岸漂着物に対する市民等の意識を高め、より幅広い主体の参画が得られるよう新潟県等の関係機関団体とより一層の連携を確保し、今後の海岸漂着物対策に取り組んでいく。

【質問】 相川病院は療養病床で老健施設や特別養護老人ホームの補完をしているが、両津病院は佐渡医療圏域の中で再度計画見直しをし、役割分担の中で適切な規模での早期建設をすべきではないか。

【市長】 両津病院と相川病院が佐渡医療圏域の中で役割を果たさなければいけない。厚生労働省の再編、統合に係る再検証として、改めて地域医療構想調整会議の中で合意を得ることとされており、そうした手順を踏まえ、耐震性能や津波浸水に大きな不安を抱える両津病院の早期移転、新築を着実に推し進めていく。

【質問】 佐渡空港拡張整備計画は、現滑走路でも離着陸できる飛行機も開発されていることから2千メートル化もしくは、1千500メートルでの早期実現を目指すべき。

【市長】 県知事とはまずは現佐渡空港を活用した空路再開を目指し、佐渡空港滑走路2千メートル化計画についても並行してしっかりと取り組んでいくという方針を確認させてもらっている。



政友会 代表質問

岩崎 隆寿 議員

三浦市政4年間の総括と
施政方針について

【質問】初年度は本予算が編

成されており、独自の施策
としては2年目以降となっ
たが、この間、市長が目指
す本市のあるべき姿の実現
に向けて行った施策は何か。

【市長】佐渡観光交流機構の
設立による観光地域づくり
の推進に取り組んできたほ
か、Uターンを促進するた
め、平成29年度から返済免
除型奨学金制度を構築し、
これまで188人に給付し
た。また、国のキャリアア
ップ助成金への上乗せ助成
などにより、3年間で40人
が臨時雇用から正規雇用と
なる見込みである。そのほ
か、雇用機会拡充事業では、
これまで128人の雇用を
生んだ。

【質問】佐渡金銀山世界遺産
登録の進捗状況と官民協働
の受け入れ体制の取り組み
はどのように考えている

か。

【市長】文化庁からの助言を
受けながら国内外の専門家
と検討を重ね、最終の修正
作業を進めている。世界遺
産により増加が見込まれる
来訪者の受け入れ態勢につ
いては、「佐渡金銀山」保
存・活用行動計画に基づき、
官民協働により整備を進め
ているところだ。

【市長】今年度、主伐や間伐
後の端材をバイオマス発電
燃料として山形県酒田港に
移出した。これは、県主導
の下、各森林組合が連携し
て行ったもので、これまで
にない新たな取り組みであ
り、計620トンを移出し
た。この移出に要した海上
輸送費の一部は離島活性化
交付金により助成しており、
今後継続して支援する。

【質問】林業振興について、

森林環境譲与税を活用し、
木質バイオマスエネルギー
を拡充すべきではないか。

【市長】今年度、主伐や間伐
後の端材をバイオマス発電
燃料として山形県酒田港に
移出した。これは、県主導
の下、各森林組合が連携し
て行ったもので、これまで
にない新たな取り組みであ
り、計620トンを移出し
た。この移出に要した海上
輸送費の一部は離島活性化
交付金により助成しており、
今後継続して支援する。

【市長】今年度、主伐や間伐
後の端材をバイオマス発電
燃料として山形県酒田港に
移出した。これは、県主導
の下、各森林組合が連携し
て行ったもので、これまで
にない新たな取り組みであ
り、計620トンを移出し
た。この移出に要した海上
輸送費の一部は離島活性化
交付金により助成しており、
今後継続して支援する。

【質問】林業振興について、



市政会 代表質問

竹内 道廣 議員

政治家は結果が全てだ

【質問】市長就任後の4年

間、議会と対立ばかりで成
果が見えない。市長として
何がしたかったのか分から
ない。何ができ、何ができ
なかったのか。4年間の総
括を求めらる。

【市長】佐渡再生に向け①徹
底した行財政改革、②官民
が連携した地場産業の育成
と拡大、③観光資源の強
化・創造「また行きたい島
づくり」、④世代バランス
の是正、4つの柱を掲げて
取り組んできた。佐渡観光
交流機構の設立による観光
地域づくりの推進に取り組
んできたほかUターンを推
進するため返済免除型の奨
学金制度を構築した。しか
し、まだ課題が多く工夫が
必要だ。

【質問】県営佐渡空港は県の
義務行為だ。既に全国の17
の離島に大型空港が完成し

佐渡だけが進んでいない。
新潟県の責任は極めて重
い。地権者全員からの覚え
書き同意があるのになぜ4
年間進めなかったのか。

【市長】佐渡空港の拡張整備
は最重要事業の一つだが県
の方針が見えず地権者への
説明を怠り不信感を募らせ
たことは反省している。花
角知事就任後、現空港を活
用した新航空路の開設の構
想が出ており新空港の整備
と並行し推進に努めていく。

【質問】佐渡汽船は新潟県の
子会社だ。船の建造費を佐
渡市に求めるのは間違い。
渡市に求めるのは間違い。
名実共に島民のための船会
社となるには佐渡市が株を
取得して共同経営であるべ
きだ。社員も佐渡出身者で
雇用の確保もできる。

【市長】基本的に船舶建造費
の支援はできないと説明し
ているが航路維持への様々



な影響を踏まえて県との協
議を継続していきたい。株
式取得については佐渡汽船
の経営の悪化もあり航路維
持のため増資を含めた支援
を検討していく。

【質問】両津港を重要港湾に
すべきだ。両津港重要港湾
建設促進協議会の設立が必
要不可欠と考えるがどうか。

【市長】両津港は物流・人
流・防災拠点として島民に
とって必要不可欠な重要港
湾で、近年クルーズ船の寄
港も増加し将来構想が不可
欠である。平成28年に港湾
計画が見直されたが議員指
摘の大型パースの計画イメ
ージとは程遠い。港湾審議
会で承認されたジェットプ
オイル用岸壁の更新を含め
た計画が早期に実施できる
よう国・県に対して様々な
要望を行っていききたい。

政風会代表質問

坂下 善英 議員

令和2年施政方針について問う



【質問】 観光地域づくりにつ

いて問う。のんびりと観光
ニーズの分析、アクティビ
ティーの造成など行っている
暇はない。世界遺産に登録
されたとしても、宿泊施設、
観光施設は体力が持たな
い。また、佐渡産食材は使
いにくいなど多くの課題が
全く解決されていない。佐
渡の課題に対応した誘客に
対する市長の考えを問う。

【市長】 観光ニーズは常に変
化し、観光動態の把握やニ
ーズ調査は必要である。そ
のデータからは宿泊施設の
改善に力を入れるべきとの
分析も出ている。滞在時間
を延長し、地域消費活動推
進に取り組んでいく。また、
地場産食材の活用について
は、価格や量の確保に対す
る課題も見えるので、漁業
関係者も含め宿泊施設とつ
なげることから進めている。

【質問】 世界遺産登録に向け

た受け入れ態勢の強化につ
いて問う。施政方針では「署
名が50万筆集まりました。
北海道・北東北の縄文遺跡
群に次ぐ推薦案件として有
力候補になりえます。だか
ら受け入れ態勢の強化をし
ます。」これだけの内容だ
けしかない。国内推薦を受
けたら世界遺産登録までは
もう2年しかなく、受けた
としたら佐渡観光にとって
最後のチャンスとなる。国
内推薦の獲得から世界遺産
登録までの具体的な取り組
み内容、工程について問う。

【市長】 今年の7月に文化庁、
関係省庁連絡会議を経て国
内推薦予定となる。その2
年後に世界遺産委員会の審
議を経て登録が決定する。
観光客から長時間滞在をし
てもらうために3つの構成
資産のみならず周辺地域の

様々なコンテンツを楽しん

でもらうため地域住民と一
緒に魅力あるまちづくりを
進める必要があるため、佐
渡観光交流機構と連携を行
っている。また、国土交通
省所管の歴史的風致維持向
上計画をまとめ、各種ハー
ド、ソフト面の計画案を策
定しているところである。

【市長】 生産者の経営体制の
整備として組織化の流れや
施設園芸の取り組みは重要
であると認識している。し
かし、需要に対応した生産
を誘導する体制が十分とは
言えない。消費者と生産者
とをマッチングする仕組み
を整え、園芸に関する中心
的組織として羽茂農業振興
公社の体制を強化したい。
そのため、市職員を派遣し
生産拡大の支援に取り組む。

一般質問

室岡 啓史 議員

佐渡が世界遺産となる
記念日を条例制定せよ



【質問】 佐渡の農山漁村の生

業を大切にし、集落でかけ
がえのない時を過ごす人と
人がつながっていく世界
観、「佐渡アイランド集落
ツーリズム構想」の実現を
私は目指している。集落の
力は佐渡の力であり、集落
多様性は佐渡が持つ最高の
魅力である。様々な活動を
通し私の中で確信に変わっ
てきた本構想をどう思うか。

【市長】 近年、個人観光客の
動きが多様化している中で、
地域に入り込む需要も確実
に増えているため、進める
べきものと考えます。本市の
第一次産業や自然、食、町
並み、伝統芸能等、あらゆる
ものに独自の文化があり、
それぞれを観光資源と捉え
ている。佐渡観光交流機構
では、新たな目線で地域資
源を発掘し、磨き上げるこ
とで、より魅力的な滞在型

観光の実現に取り組んでい

る。集落人口の減少により、
空き家対策や町並み保存、
伝統芸能の継承等が課題と
なっているため、地域おこ
し協力隊や大学生等を活用
した取組みを進めるとも
に、生産年齢人口の増加に
向けて移住、定住施策を推
進したい。

【質問】 佐渡金銀山は、最短
で本年夏に国内推薦獲得、
2022年6月に世界遺産
登録が決まる。その日を
記念日として、「佐渡は世
界遺産に、心の佐渡市民の
日」(仮) 条例を制定すべ
きである。当日は市の施設
を無料開放、民間事業者に
も語呂合わせで佐渡となる
310円や3,100円等
のキャンペーンを実施して
いただき、佐渡の魅力を市
民や関係人口の皆さまと共
有すべきと考えますがどう

か。

【市長】 条例制定への機運が
高まる中で制定すべきと考
える。市民の思いが醸成さ
れ、多様な関係者の強い連
携が必要。日にちを固定、
曜日を加味する等、様々な
検討の中で練るべき。まず
は、今年7月予定の国内推
薦を必ず勝ち取りたい。

【質問】 本年4月から全小中
学校で始まる学校運営協議
会制度では、地域づくりと
の連動が見えてきている。
例えば、マチ型の八幡小学
校モデルやムラ型の松ヶ崎
小中学校モデルを横展開す
べきと考えますが、どうか。